

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立田辺高等学校	中山 浩樹
学校所在地		
〒646-0024 和歌山県田辺市学園1番71号 tel 0739 (22) 1880 fax 0739 (22) 0636		
担当者名	役職名・担当教科	
小竹 博允	教諭・地歴公民科	
<p>〔学校の概要〕</p> <p>明治29年に創立された和歌山県第二尋常中学校（明治34年に和歌山県立田辺中学校と改称）を母胎とし、創立120年を超える伝統校である。「合理的な思考」「豊かな情操」「積極的な行動」を教育目標とし、21世紀に入って力強く、積極的に、心豊かに生きていく力の育成に努めている。現在は普通科と自然科学科（田辺中学校からの接続）の2学科で、生徒は文武両道を目指し、勉強と部活動に励んでいる。</p> <p>2017年からはユネスコスクールとしての活動に取り組み、世界遺産の地にある高等学校として地域学習と異文化理解学習を結びつけた教育活動を展開している。また、総務部ESD推進班を中心に「SDGs達成のための教育」を推進しており、「総合的な探究の時間」では積極的に外部機関と連携し、講演会などを実施しつつ、SDGsを意識した探究学習に取り組んでいる。また、生徒有志の委員会活動として「SEEKER」を組織し、放課後・休日を利用して、高大連携・地域連携・国際交流などに取り組んでいる。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
全学年生徒・866名	職員 45名	本校
実践研究テーマ		
世界遺産の有する地域を深く理解し、グローバルな視点に立って、地域と世界とのつながりを探究する。		
実践教科等名	単元名	
総合的な探究の時間 生徒委員会活動（SEEKER）	「地域の魅力を探究する」「スタディツアープランを作成する」「地域と世界とのつながりを探究する」「熊野の地から世界を見つめる」「持続可能な地域づくりに貢献する」	
〔キーワード〕		
地域の魅力 世界遺産 スタディツアー 国際理解 和歌山県人会 地域に誇りをもつ 持続可能な地域		
〔単元目標〕		
<p>一学年の総合的な探究の時間では、1学期に「地域の魅力を探究する」をテーマに探究活動に取り組み、多角的に地域の魅力を理解する。2学期・3学期には「スタディツアープランを作成する」に取り組み、持続可能な地域づくりの視点をふまえて地域理解を深める。</p> <p>二年の総合的な探究の時間では、「地域と世界とのつながりを探究する」に取り組み、世界各国の和歌山県人会との国際交流や、SDGsをテーマにした小論文作成などを通じて、グローバルな視点から地域を見つめなおす。</p> <p>生徒委員会活動（SEEKER）では、「熊野の地から世界を見つめる」に取り組み、国際交流を通じて地域の魅力を世界に発信する。また、「持続可能な地域づくりに貢献する」に取り組み、高大連携・地域連携などを通じて地域課題解決に関する理解を深め、各種プロジェクトに取り組む。放課後講座「地域みらいゼミ」を受講し、地域の魅力や地方創生に関して専門的な学びを深める。さらに、ユネスコスクールの活動として、地域の世界遺産に関する理解を深め、保全活動にも参加することなどを通して、ユネスコの目標である「国際平和」に貢献できるための幅広い知識やグローバルな視点を育成する。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 21時間（「総合的な探究の時間」10時間、地域みらいゼミ6時間、次世代育成事業5時間）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
和歌山県世界遺産センター 和歌山県企画部企画政策局国際課 世界遺産熊野本宮館 和歌山地方气象台 (株)セールスフォース・ドットコム (株)南紀白浜エアポート 日本ポリグル株式会社 JICA関西和歌山デスク 田辺市教育委員会 立命館大学経済学部 立命館大学食マネジメント学部 山森農園 和歌山県世界遺産マスター		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	一学年総合的な探究の時間 1学期：「地域の魅力を探究する」…各自がテーマを設定し、情報を収集してまとめたうえで、プレゼンテーションをする。	世界遺産熊野本宮館職員による講演など、地域の魅力を理解するためのヒントを与えた。	総合的な探究の時間における評価による。
2	一学年総合的な探究の時間 2学期・3学期：「スタディツアーのプランを作成する」…各自がテーマを設定し、地域の魅力を発信するための探究を行う。	立命館大学の教員や（株）南紀白浜エアポート社長による講演などを通じて、スタディツアーや地域の特色など理解するためのヒントを与えた。	総合的な探究の時間における評価による。
3	二学年総合的な探究の時間 「地域と世界とのつながりを探究する」…グループでテーマを設定し、情報を収集してまとめ、プレゼンテーションをする。	JICA関西和歌山デスク職員による講演や、和歌山県企画部企画政策局国際課のコーディネーターによる国際交流を通じて、国際理解を深め機会を与えた。	総合的な探究の時間における評価による。
4	三学年総合的な探究の時間 探究学習のまとめとして、「自己の在り方・生き方を探究する」に取り組み、社会貢献の視点から自己の進路を探究する。	和歌山県世界遺産センター山西毅治所長による講演を聴き、地域の魅力を理解し、地域に誇りをもって生きていくことの大切さを学ぶ機会を与えた。	総合的な探究の時間における評価による。
5	生徒委員会活動（SEEKER） 放課後講座「地域みらいゼミ」の受講、次世代育成事業への参加、国際交流への参加など	和歌山県世界遺産センター、（株）セールスフオース・ドットコム、和歌山県企画部企画政策局国際課、立命館大学などの外部機関との連携によりご支援を得た。	事後アンケートの実施による自己評価
<p>〔単元学習の成果と課題〕</p> <p>総合的な探究の時間を通じて、生徒の地域理解が深まった。とくに、1年次では、世界文化遺産を含む地域の魅力を再発見し、生徒が多角的に地域を見つめなおすことができた。また、2年次では、グローバルな視点で地域をとらえ、主体的に地域課題の解決や、持続可能な地域づくりに参画する意識を高めることができたのではないかと考えている。また、3年次では、進学とともに県外へ移住する生徒が多数存在する本校において、地域への愛着と誇りをもつことの大切さを伝える機会を設けることで、卒業後も地域に関わり続けようとする生徒や、地域の魅力を発信しようとする生徒が増えると予想している。総じて、「総合的な探究の時間」を通じて、連携していただいている外部機関のご支援・ご協力のもと、「持続可能な地域づくり」の担い手を育成する学習活動を展開できていると確信している。また、生徒委員会活動（SEEKER）では、より専門的な学びや探究活動を通じて、将来の持続可能な地域づくりを担うスペシャリストの養成につながる取り組みができたと自負している。</p> <p>今年度も昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、フィールドワーク等が実施できなかつたり、学習計画を大幅に変更せざるを得ない状況があったりした。来年度以降は、状況が許されれば、校外学習などを効果的に組み込み、地域連携をさらに深めながら地域学習を展開していくことが課題である。</p>			
<p>〔世界遺産学習の効果〕</p> <p>「次世代育成事業」への参加や「地域みらいゼミ」の受講を通じて、世界遺産の現状・世界遺産の基本・紀伊山地の霊場と参詣道等を学ぶことで、「熊野地域」の高校生として、「今後も継続して世界遺産の保全と活用に取り組みたい」という意識が高まった。「なぜ、紀伊山地の霊場と参詣道が世界から高い評価を受けているのか」「どのような戦略にもとづいて誘客に成功したのか」を理解し、「世界遺産に登録すれば継続的に観光客が増加する」という考えは誤っていることに気づいた生徒が多かったと思われる。訪れる人々が満足するステージの高い環境整備や保全活動を実施する必要があることを学び、生徒が主体的に世界遺産や地域創生に関わっていかねばならないと自覚できたことは大変有意義であった。</p> <p>また、本校SEEKERの生徒と、中国四川省の高校生とがオンラインで交流したが、本校からは地域の世界遺産をテーマに発表し、「紀伊山地の霊場と参詣道」の魅力を相手に伝えることができたのは、世界遺産学習の成果であると考えている。</p>			
<p>〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕</p> <p>ユネスコスクールとして、ユネスコが「国際社会の平和」のために創設され、そのユネスコと世界の多くの国と締結した「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）」は、国際平和と深く関わるものであることを生徒に認識させる必要がある。今後は、世界遺産を観光の側面にとらえる生徒が多いことを踏まえ、世界遺産の歴史やユネスコ憲章前文にあるユネスコの精神を今一度、一年次から学習することが必要と考える。</p> <p>また、熊野地域の世界遺産の構成資産を学ぶだけでなく、高野山や吉野など、「紀伊山地の霊場と参詣道」の全体像を学ぶ視点も大切にしていきたい。「熊野」だけでなく、紀伊半島全体の魅力を理解できる学習を展開していくことが今後の課題である。</p>			

様式 2

令和3年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

1 和歌山県世界遺産センター職員による講義

世界遺産センター職員の金井直大氏による世界遺産講座を受講した。世界遺産の概要をご説明いただいたあと、「紀伊山地の霊場と参詣道」に関して具体的な価値や魅力をご教示いただいた。「総合的な探究の時間」で世界遺産に関して探究している生徒も多いが、専門家の講義を聴くことで、熊野・高野の魅力について再確認することができたと思われる。また、世界遺産は、登録されればよいというものではなく、登録後の保全と活用が大切であるということも教えていただき、それゆえに、地域社会の一員として、世界遺産の保全活動に参画することが求められていることを認識することができた。



2 熊野参詣道現地学習

7名程度の3班に分かれ、平岩口バス停から三軒茶屋跡を經由し、熊野本宮大社に至るルートを歩き、熊野古道の現地学習を行った。和歌山県世界遺産マスター・世界遺産センター職員の方々から丁寧な説明を受けながら、現地学習を行った。三軒茶屋跡にある道標などで説明を受けることで、千年以上続く熊野古道の歴史を感じることができた。世界遺産マスターの山内さんが本校の卒業生であり、自分たちの先輩から丁寧に世界遺産について解説していただき、生徒にとっては世界遺産をより身近に感じることができた。



3 参詣道保全活動

熊野古道ウォーキングの途中で、参詣道の保全活動を行った。土入れ作業ではなく、昨年度と同様に横断溝・側溝にたまった土や枯葉を取り除く清掃作業を行った。参加生徒全員が女子であったことから、体力面・安全面を考慮すると、適切な保全活動を体験させていただいたと考えている。生徒からは、「世界遺産の保全に関わって嬉しかった」という前向きな意見を多く聞くことができた。体験する機会を提供することが、非常に有意義な教育活動であることを実感した取り組みであった。



4 世界遺産の保全と活用について（地域みらいゼミ）

熊野参詣道の保全については参詣道保全活動（道普請）を行い、活用面から世界遺産を考えるために、和歌山県世界遺産センター所長に来校していただき、年間6回にわたる地域みらいゼミを開講した。世界遺産としての質を保つことの大切さや観光面で活用するためにこれまで行ってきた和歌山県の取り組みなど、毎回貴重なお話をきくことができた。学んだ内容を国際交流の場面に生かすなど、地域の魅力の発信につなげることができた。また、地域の魅力を生かした地方創生の視点を専門的に学ぶことで、将来、この地域で、民間あるいは公的機関に就職し、「持続可能な地域づくり」に取り組む生徒が増えるのではないかと期待している。



5 次世代育成事業に参加して

次世代育成事業を通して、田辺高等学校がユネスコスクールとして世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」をフィールドに、様々な角度から学習できることは大変有意義なものである。今できる保全活動を行うことで、地域にある人類の宝物である紀伊山地の魅力を実感することができたと考えている。

特に、参加生にとって、身近にある熊野参詣道や熊野本宮大社が何故、人々を惹きつけるのかを理解でき、今後、校内で取り組む探究活動を展開する上で大変貴重な体験となった。また、世界遺産講座を通じて、熊野地方以外の、高野・吉野の魅力も理解することができ、生徒の探究意欲が高まったのではないかと考えている。是非、来年度も次世代育成事業に応募させていただき、熊野だけではなく、高野の魅力も生徒が体感できる機会を提供できればと考えている。